

番号	ご意見、ご感想		市からの回答、市の考え等
	市民ホール整備方針について	要求水準書の作成について	
1	事業の節目には、このような説明会を開催していただきたい。		必要に応じて説明会を開催します。
2	大物歌手がコンサートをやるような大ホールを備えた市民ホールを建設してもらいたい。		大ホールは客席数1,000席以上としており、良質なホールを整備することを大前提に機能等を要求水準書で定めてまいります。
3		これまで積み上げてきました様々な市民意見の反映をどのように具現化させる考えなのでしょう。市民との対話の継続、ヒアリングについて方針を教えてください。	実施設計に至るこれまでの成果、具体的には、基本設計において4回実施した市民ワーキングの意見や平面プランのパブリックコメント募集結果、また、実施設計において3回実施した意見交換会や2回実施した市民説明会での意見、これらにつきましては、要求水準書の作成において、専門家の協力を得ながら可能な限り反映させることとしております。また、要求水準書の策定に当たっては、引き続き、市民の皆様と意見を交換しながら進めてまいりたいと考えております。
4	新居案は単なる建築設計ではなく、まちづくり「コミュニティデザイン」も考えたデザインである。ソーシャル・インベストメントという将来に対する投資のため、せっかくできた、「市民と創り上げた」デザインを無駄にしてよいのか。何とか採用できる理屈を考えるべきと思う。新居案を基礎として再考してください。	KPI・SLA方式で行うのか。予算のデザインビルド一括であれば、入札金額での決定は無しとなる。サービスレベルの点数配点は明確にするのか。新居さんへ要求した設計と条件と比較しながらの選考が必要。	財政推計の結果、建設費の減額が避けられないことから、苦渋の決断ではございますが、実施設計図書に基づく整備は困難であります。また、事業者の選定は、国土交通省の多様な入札契約方式モデル事業を活用して、事業提案（設計・施工一括発注方式）による具体的な事業者選定方法を年度内に確定いたします。そして、管理運営については、開館後当面は市の直営とするため、事業者選定において、維持管理については考慮するものの、サービスレベルを点数配点することはなじまないものと考えております。
5	仮に73億円で落札された場合、どのように対応していくつもりだったのでしょうか。（今後の財政難に関連して）		平成26年度の入札で予算内の金額で落札された場合は、財源の確保に努めながら予定どおり整備を実施し、ランニングコストを極力抑えて運営していくこととしておりました。
6	私は埼玉県さいたま市在住ですが、大宮 小田原と電車一本で来れるようになり、埼玉からも小田原にスムーズに来れるようになりました。現在の市民ホールにも数回行ったこともあります。建物自体も古いと感じております。今回初めて説明会に参加させて頂きましたが、市長が「建て替えます」を柱にもっとスピーディーに行うことが必要に感じました。市民の方の意見もとても素晴らしい意見もありましたが、これ以上の時間、年月をかけるのではなく、この年度には完成するという意気込みが必要かと感じます。ぜひ、素晴らしい「市民ホール」が出来ることを期待しています。また、保育園の待機児童問題を含め、私も保育園に勤務する一人として、幼稚園、保育園にも格安でホールを貸して頂けることで、未来の子供たちにも活動ができるようにしてほしいです。縁がありましたら新しい（私立）保育園を作らせて頂きたいと思っております。		皆様の期待に応えるためにも、シンプルで使いやすい良質な市民ホールを整備を推進してまいります。また、使用料金については、受益者負担の考え方を基本として、適切な料金を設定いたします。
7	建築の基本。土地が決まらなければ建物プランは立てられない。しっかりしろ。		建設用地については、小田原法務合同庁舎敷地の一部と市民ホール建設予定地の一部の交換について協議しておりますが、この結果如何にかかわらず、交換の対象となっている用地以外の部分にホールを建設する考えです。
8	実施設計時とは*「逆」に今回の失政の後は慎重に進められてはどうか。*当ても拙速をいさめたつもりですが。		今後、厳しい財政運営が見込まれることや、老朽化が著しく早期の建て替えが求められている市民会館の現状を踏まえ、シンプルで使いやすい良質なホールを目指して、市民ホールを整備を進めてまいります。
9	2016年の2大残念賞は、「タワーレコード」が無くなった。「芸術文化創造センター」が無くなった。です。まあ、に関しては、それに伴い、そのデザインが無くなったのは良いことである。（あのデザインは全く評価しないので。）（そもそもあのデザインがなぜ選ばれたのか。一番良いと思ったのなら、ビックリだ。本当にそう思ったの（苦笑）。）まあ、とは言え、は、もう終わった話なので、もういいか、と。（デザインも、もう終わった話。）（しかし、それにとらわれている人々がいるのは、意味不明としか言いようがない。何なのですかね。コレ。）よって、新たな仕切り直しだと。新方針で進めて下さい。シンプルでミニマム、良いね。		皆様の期待に応えるためにも、シンプルで使いやすい良質な市民ホールを整備を推進してまいります。
10	今まで（城下町ホール～芸術文化創造センター）に関わる経費はいくら位ですか。その何億はどういうお金かわかっていますか。そのお金があれば新居さんの設計で建てられたと思います。		これまで用地取得に24億円、文化財調査に5億円、設計費に3.5億円など、合計で36億円支出しました。そのうち、約3億円は国・県からの交付金等で、残りの約33億円は市の負担です。また、財政推計の結果、建設費の減額が避けられないことから、苦渋の決断ではございますが、実施設計図書に基づく整備は困難であります。
11	子育て世代が抜けていく中、市民ホールに63億をかけること自体が理解に苦しみます。市民ホールは、日々ランニングコストもかかります。生産年齢人口が減る中、本当に必要な施設なのでしょう。ホールが無いから小田原から引越すという人はいませんが、保育や子育てが十分で無いからと小田原から引越す人はいます。今やるべきことは、市民ホールを整備ではなく、保育や子育てなど、困っている人のための施策ではないかと思っております。	保育園や児童館等、子育て、子供の居場所作りの方が重要です。きちんと駐車場を確保して、子供が来やすい場所が大事かと思っております。パブリックコメントを募集し、広く子育て世代に聞いてみてはいかがでしょうか。	市民ホールは、文化的な面だけでなく、まちづくりやにぎわいの創出など経済的な発展にも寄与するもので、小田原にとって未来への投資であることから、整備を推進していく考えです。市民ホールを整備方針は、市政全体における事業推進と財政運営の最適化という観点から判断したものですので、これについてパブリックコメントを実施する考えはございませんが、要求水準書の策定に当たっては、引き続き、市民の皆様と意見を交換しながら進めていきたいと考えております。

12	<p>後世の城下町は、日建設計を使うことで望まれなくなった。今日2016.12.23で後世人たちに行政の恥を残した。</p>		<p>市民ホール整備事業が国土交通省の多様な入札契約方式モデル事業に採択され、既に支援事業者である日建設計コンストラクション・マネジメント株式会社と様々な検討を行っております。そして、要求水準書は市で作成するものであり、その策定に当たっては、引き続き、市民の皆様と意見を交換しながら進めていきたいと考えており、要求水準書の作成から事業者の選定、発注、建設工事に至るまで、専門家の協力を得るとともに、コストマネジメントの観点からコスト管理や品質管理ができる専門業者に支援を委託し、事業者に対するガバナンスを強化します。</p>
13	<p>8年関わってきましたが、8年経ってもホールが建たないのは異常なことです。原因は、市長の「やる気」「心意気」が無くなったこと。関わったみなさんは、新居さんの設計が良いと言っているんですよ。声をあげていない人も街では本当に新居さんのがいい、だけど立場があって言えないという人が大勢いるのをご存知ですか。元上司から聞いた素晴らしい事例があります。大船渡の市長は、子供ミュージカルに感動して、子供たちのためにホールをつくらうと2年で完成。検索してホールのことを調べたら、なんと設計者は、新居千秋さんでした。私はこの話を聞いた時には、興奮しました。やる気があれば2年で建つですよ。日建設計が関わったホールの舞台の方よりメールをいただきましたが、知らないところで設計が進むので、出来上がったものに口出しするなと言われたとのこと。あまりにも頭にきたので「使い手の言うことを聞け」と返したそうです。既に、こんなやり取りをしたという方から、心配するメールをいただくほど、危険選択をしたと理解していますか。市長や副市長が大丈夫と言ったところで、舞台人ではないですから、信用することは出来ません。小田原の失敗の原因として、専門委員に熟練の舞台監督がいないこと。舞台専門職として採用している職員のAさんは、ワークショップの自己紹介で、「国立劇場で長年働いていた」と言っていました。国立の正社員は異動があるので一箇所で長く勤めていることはありません。実際はB社という外注スタッフ会社の派遣です。外注スタッフは劇場の正社員とは違います。私の知人がB社にも国立劇場にもいましてAさんのことが分かったのですが、舞台監督と大道具操作員では、仕事が違い過ぎます。市民にうその自己紹介をするのは、経歴詐称ではないでしょうか。</p>		<p>財政推計の結果、建設費の減額が避けられないことから、苦渋の判断ではございますが、実施設計図書に基づく整備は困難であります。また、事業者の選定は、本事業が国土交通省の多様な入札契約方式モデル事業に採択され、既に支援事業者である日建設計コンストラクション・マネジメント株式会社と様々な検討を行っております。そして、要求水準書は市で作成するものであり、その策定に当たっては、引き続き、市民の皆様と意見を交換しながら進めていきたいと考えており、要求水準書の作成から事業者の選定、発注、建設工事に至るまで、専門家の協力を得るとともに、コストマネジメントの観点からコスト管理や品質管理ができる専門業者に支援を委託し、事業者に対するガバナンスを強化します。なお、市職員のAは、民間会社の社員として、長年、国立劇場舞台部に配属されておりました。さらに、神奈川県立音楽堂の舞台業務統括監督として、舞台監督業務等にも従事しており、35年以上にわたる舞台経験を生かし、本市においても市民会館における質の高い公演の実現をはじめ、アウトリーチャワークショップなど本市の芸術文化の創造活動の支援に貢献しております。</p>
14		<p>「実施設計に至るこれまでの作業の成果を反映」の実現を約束、担保するのであれば、新居氏による監修などが最も実現性、実効性が高いのではないのでしょうか。そのような方法も是非検討して下さい。</p>	<p>実施設計に至るこれまでの成果、具体的には、基本設計において4回実施した市民ワーキングの意見や平面プランのパブリックコメント募集結果、また、実施設計において3回実施した意見交換会や2回実施した市民説明会での意見、これらにつきましては、要求水準書の作成において、専門家の協力を得ながら可能な限り反映させることとしております。また、今後の事業者選定には、新居氏のエントリーも可能であるため、事業者選定の際の仕様書に相当する要求水準書の作成に新居氏が関与することは、公平性の面から適切ではありません。</p>
15	<p>建設費の説明の中で、交付金の社会資本整備総合交付金や神奈川県市町村自治基盤強化総合補助金の説明がありませんでしたが、それはどうなったのでしょうか。今回、計画で説明した人は、文化部の人ではなかったと思いますが、どなたでしょうか。</p>		<p>交付金については、近年、本市の要望に対して国からの内示が要望どおりとなっていない年度もあることから、国の交付金の確保は流動的です。また、説明者は文化部文化政策課長です。</p>
16	<p>11月17日発表の市の方針のリードに「シンプルで使いやすいホール」という原点に立つとありますが、この「シンプル」とは、いわゆる「城下町ホール」の奇抜さに対する考えとして出されたものだったのではないのでしょうか。もうそれは無くなってスタートしているのに、ことさら「シンプル」を強調することはないでしょうか。今日新たに「質の良い」というワードが出されましたが、そこがポイントです。その点で、「1,000名以上」は1,001人でもそうですよね。少なくとも1,200位はほしいと思います。「シンプル」はお金も減らすととれます。確かにお金も減らす必要もありませんが、本当に「良いホール」を作る努力をして下さい。</p>	<p>「専門家の協力を得ながら」とあります。専門家がいなければ良いものは出来ませんよね。ぜひ、その中に新居さんも入れてください。</p>	<p>今後、非常に厳しい財政運営が見込まれることを踏まえ、後年度の財政負担の軽減化を図る一方、早期の建て替えが求められている市民会館の機能を核に、シンプルで使いやすい良質なホールを整備するという面も考慮して、建設費をこれまでの約73億円から10億円程度減額して63億円程度としました。そして、大ホールは客席数1,000席以上としており、良質なホールを整備することを大前提に機能等を要求水準書で定めてまいります。また、今後の事業者選定には、新居氏のエントリーも可能であるため、事業者選定の際の仕様書に相当する要求水準書の作成に新居氏が関与することは、公平性の面から適切ではありません。</p>

17	多くの人(立場の人)が集まって話し合う。商工会議所の会頭さんも、設計に関わってきた人も。そして一番いいものをつくる。その作業を丁寧にやってほしいと思います。「良いもの」(値打ちがあるもの)を「大事に」使うように変わっていくのが、現在の日本の課題になっていると思います。安いものをどんどん新しくしていく(取り替えていく)というのは、人々を使い捨てていく社会のこれまでのあり方でした。変えましょう。この建築物から。良い物が出来なかつたら、誰が責任を取るのでしょうか。市民や様々な方が今後とも関わって、広範な方々の共同の作業を進めていけば、市民みんなの責任になります。そして財産になります。是非お願いしたいと思います。	説明の時に使われた画面の配布された後のものを是非公開してください。具体的なホールの姿が見えてくるでしょうから。	皆様の期待の応えるためにも、シンプルで使いやすい良質な市民ホールの整備を推進してまいります。説明資料は、市ホームページで公開しておりますのでご覧ください。
18	とにかく、新しいホールは出来るだけ早く必要である。7,400名の署名もその多くは、新居案というよりも、早くつくる事に対する賛意と思う。現在の進め方の中でデザインビルドの時に、市が管理する体制を取りながら進めていただきたい。要求水準書とも関連するが、個々の機能の優先順位を必ずつけて進めていただきたい。	これまでの審議過程を活用しつつ、現実性のあるものにするために、ポイントポイントで市民の声を聞くことが出来るように、新しいワークショッブを構成して、専門家の意見というものと共に使う市民の声を反映するようなメカニズムを作ってほしい。必ずインフレスライドは起きるので、項目の優先順位を定めておき、絶対に「質」を確保するために必要な対策を講ずるべきと思う。	皆様の期待の応えるためにも、シンプルで使いやすい良質な市民ホールの整備を推進してまいります。要求水準書の作成から事業者の選定、発注、建設工事に至るまで、専門家の協力を得るとともに、コストマネジメントの観点からコスト管理や品質管理ができる専門業者に支援を委託し、事業者に対するガバナンスを強化します。また、要求水準書の策定に当たっては、引き続き、市民の皆様と意見を交換しながら、進めていきたいと考えており、良質なホールの整備を目指してまいります。インフレスライド条項の適用については、建設時の状況に応じて対応することになります。
19	一日も早く完成させて下さい。特に音については、市も皆様の意見を参考にしてほしい。今日は「舞台」の高さの件が聞けませんでした。現状の市民ホールは高すぎるので、南足柄市のホールの様に低くして下さい。お客がとつてもよく見えると言っていました。私もそう思いました。ご検討を。10年以上経って、私もだんだん年を重ねてきましたので、まああの市民ホールで良いと思います。		皆様の期待に応えるためにも、シンプルで使いやすい良質な市民ホールの整備を推進してまいります。大ホールの具体の仕様については検討中であり、要求水準書を示す際には明らかにさせていただきます。要求水準書の策定に当たっては、引き続き、市民の皆様と意見を交換しながら進めていきたいと考えております。
20	本日の説明会には120~130人の方が参加されました。また多くの方の意見が発表され、質疑もされました。しかし、発言者は常連の方々ばかりであり、これまで検討委員会等に関わってこられた方でした。これらの方々の一定のガス抜きにはなったとは思いますが、本当の意味での市民の総意が表に出た説明会とは思えませんでした。		皆様の期待に応えるためにも、シンプルで使いやすい良質な市民ホールの整備を推進してまいります。市民ホールの整備に向けて、今後も様々な場面で皆様のご意見をいただく機会を設けてまいります。
21	早くホールを完成させてください。オリンピックで資材がアップしている。また、工賃がアップしている現在です。完成が遅れば工費がアップしてしまう。何で34年度財政難であるため、市民に対話しなかったのか。		皆様の期待に応えるためにも、シンプルで使いやすい良質な市民ホールの整備を推進してまいります。平成28年度は総合計画後期基本計画策定の時期等に当たり財政推計を行ったところであり、この収支推計を踏まえ、財源確保に加え、事業の優先順位付けや事業費の圧縮など、これまで以上に計画的な施策調整等を行うことが必要となっております。
22	これまでの新居設計では、大ホールがコンクリートむき出しになっていたのが、多分マロニエのような感触ではないかと思いますが、少し寒々しい気がしていました。それに引き替え、小ホールは小田原らしい寄木を活かした木造で好感が持てました。これからの大ホールにも、これまでの小ホール的な考えを取り入れてもらいたいです。	日建設計コンストラクション・マネジメント(株)という名称を初めてうかがいました。これまでの事業プロポーザル提案は、ずっと伏せられており、極秘裏に市で行われていた感じが払えませんが、今日の計画では遅い完成です。もう少し早くしてもらわなければ、多くの市民は納得しないと思われる。新居さんの設計をそのままでも、もう一度新居さんに設計し直してもらい、シンプルに大、小ホールを取り入れてもらう形式にしてもらったらどうでしょうね。話を聞いてみて、新居さんにもう一度公募に参加してもらいたいですね。	ホールの具体の仕様については検討中であり、要求水準書の案を示す際には明らかにさせていただきます。また、事業者の選定は、本事業が国土交通省の多様な入札契約方式モデル事業に採択され、既に支援事業者である日建設計コンストラクション・マネジメント株式会社と様々な検討を行っております。これを活用して、事業提案(設計・施工一括発注方式)による具体的な事業者選定方法を年度内に確定いたします。また、今後の事業者選定には、新居氏のエントリーも可能です。
23	市民会館の建て替えという「市民ホール」では、「芸術文化創造センター」の重要なコンセプト「文化創造機能」が無くなってしまわないかと感じました。次世代に何を残すのか、そのコンセプトは何か、が最も重要で箱ではありません。センターはそういう活動をするための場に過ぎず、大切なのは創造活動出来る人を育て、活躍し、伝えていくことの体制づくりです。どう体制をつくるかを明確にしてほしい。		市民ホールの諸室を様々な用途に使用が可能とする多機能化をすることで、市民ホール基本計画を極力実現したいと考えております。市民ホールの基本理念は、多様で豊かな市民の芸術文化創造活動からわきあがるクリエイティブな力と熱意が市民ホールからまちへとあふれ未来に開かれた文化都市を創造することであり、これは今回の方針にある、市民の多様な芸術文化活動をまち全体へと広げ、希望と活力にあふれた小田原をつくることと共通しており、このための体制を含めたソフト面も充実させてまいります。
24	謝罪があったのは良かったが、具体的に踏み込む給料カットなど、それをやって本当の市長、執行部の決意が伝わるのでは。	市のやり方が民主主義でない、ということでもあるのでは。その不満だろうと思います。	これまで多くの市民の皆様のご参画をいただきながら、経費と時間をかけてたどり着いた実施設計を実現することが出来なくなりましたことにつきましては、苦渋の判断ではございますが、大変申し訳なく、改めてお詫び申し上げます。早期整備を待ち望んでおられた皆様には、整備が遅れていることにつきまして、改めてお詫びを申し上げますとともに、今回の方針にご理解をいただき、仕切り直し後の市民ホールの整備においても、より一層のご協力を心からお願い申し上げます。
25	市民ホール、早期に実現して下さい。シンプルな大ホールと小ホール(機能重視)をお願いします。	優先順位を決めて、使い勝手の良い物をお願いします。	皆様の期待に応えるためにも、シンプルで使いやすい良質な市民ホールの整備を推進してまいります。諸室の配置や具体の仕様については検討中であり、要求水準書の案を示す際には明らかにさせていただきます。

26	市民ホールの名称を変え、「市民芸術文化ホール」へ。小田原の中心に成ります。県外、世界からも利用されますので名称を変えてください。また、コピー室や託児室も必要です。ヨロシク。		新しい施設の呼称については、新しい施設は、現市民会館の機能を核に組み立てることとし、当面の呼称を「市民ホール」といたしました。諸室については検討中であり、要求水準書の案を示す際には明らかにさせていただきます。要求水準書の策定に当たっては、引き続き、市民の皆様と意見を交換しながら進めていきたいと考えております。
27	説明は資料を利用していない。資料としては不十分。財政推計など前半の部分について、説明と資料を一致させてほしい。説明は、単なる良いことの羅列に過ぎない(いずれ画餅となる)。芸術文化創造の拠点としての機能を持った新ホールができるのか。こんな程度の90億 60億の考えで造ったホールに魂が入りますか。観光に力を入れると共に、市民のためには芸術文化創造はとても魅力的です。両方に力を入れて下さい。魅力的な小田原を。	財政推計はどう作られているかわかりませんが、旧市民会館の土地を売るとか財源を作れないのか。国があればどの借金を抱えて生き延びている。市も借金しても生き残るのではないか。良いものは良い。判断力を持ってほしい。例にあげた他市のホールについて、小田原は東京近辺、埼玉、千葉近辺のホールと比較すべきではないか。環境が、時代が全く違う地域のものとの比較は無理。	資料のご提供を含め、今後も分かりやすい説明に努めます。市民ホールの整備をはじめ、今後、現市民会館用地も含めた将来の三の丸地区全体の整備を視野に入れながら、小田原城と一体となった新たな観光交流空間としての活用方を検討いたします。そして、財政推計の収支推計を踏まえ、財源確保に加え、事業の優先順位付けや事業費の圧縮など、これまで以上に計画的な施策調整等を行うことが必要となっております。また、他市の事例については、ゾーニングと施設の機能構成を主に説明いたしました。
28		機能をまちなかに分散はするができる限りは市民ホールに集約を図るとの方針のようだが、むしろ積極的にまちなかに分散を図るべきではないか。まちづくり戦略を平均分配主義にするなら、「産業関連相互作用」を發揮させるには有効ではないか。	まちなかへの配置は補完的なものとし、新たなコストの発生を最小限に抑えることとして、芸術文化活動を専用とするものは視野に入れておりません。しかしながら、市民ホール基本計画にある諸室をまちなかに配置することによって、まち全体で芸術文化を創造していくこととともに、回遊性の向上により、まちなかの活性化にも寄与するものといえます。
29	検討委員会が協議し決めた基本計画、実施計画は、新提案の市民ホール基本計画を何も阻害していない。全て満たされているというより、新居氏の設計により更に優れているものです。コストの点では、設計者との意見交換の余地はあると思う。行政は避けるのか。	コストマネジメント、要求水準書作成、事業者の選定、建設工事と専門家の協力ができないのか。(新居氏に)	財政推計の結果、建設費の減額が避けられないことから、実施設計図書に基づく整備は困難であります。これまで多くの市民の皆様のご参画をいただきながら、経費と時間をかけてたどり着いた実施設計を実現することが出来なくなりましたことにつきましては、苦渋の判断ではございますが、大変申し訳なく、改めてお詫び申し上げます。また、今後の事業者選定には、新居氏のエンタリも可能であるため、事業者選定の際の仕様書に相当する要求水準書の作成に新居氏が関与することは、公平性の面から適切ではありません。
30	新居氏の設計を採用して下さい。		財政推計の結果、建設費の減額が避けられないことから、実施設計図書に基づく整備は困難であります。これまで多くの市民の皆様のご参画をいただきながら、経費と時間をかけてたどり着いた実施設計を実現することが出来なくなりましたことにつきましては、苦渋の判断ではございますが、大変申し訳なく、改めてお詫び申し上げます。
31	急ぐことが無いようにしてください。	市民周知に努めてください。	市民ホールの整備に向けては、着実に進めまいります。市ホームページ及び広報をはじめ、今後も機会をとらえて市民説明会を開催するなど周知に努めてまいります。
32	財政推計で市民ホールは63億円で計上してあったのか。入札時に73億で応札があったら、市の財政は今の推計と異なることになったのか。結果として、入札不調のおかげで市は10億の節減が出来たということか。		財政推計には、市民ホールは含まれておりません。したがって、市民ホールを計上すると財政推計の収支は異なることとなります。また、建設費の63億円程度は、約73億円であった芸術文化創造センターより、約10億円減額しております。これにより、市債の発行を抑え、将来の負担を減らしました。
33	足かけ8年にわたる市民との協同でつくりあげた「実施設計」をいとも簡単に反故にし、日建に丸投げとは。実施設計より良いものが出来上がる訳がありません。しかも相手は豊洲での悪名高き日建グループです。市民派市長を訴えて当選した加藤市長のやり方とは信じられません。どこで変節してきたのですか。あなたの決断に期待する市民が23日、これだけ集まっているではないですか。恐れることはありません。市民があなたを守ります。原点に立ち返ってください。このままでは「至誠無息」のあの小田高精神が泣くでしょう。そしてやっていることは、民主主義発祥の地と教える市教委の教えとは真逆の悪い意味での「小田原評定」を見せつけられた感じがぬぐえません。	専門家の協力を得ながら出来る限り・・・という期待値を述べているに過ぎない。実施設計まで練り上げた、あの年数、頻度、水準までと同程度のものが出来る保障はない。丸投げしているの無責任な発言は、市民としては全く信用されるはずがない。全てが抽象的、あいまいな説明であることが、この説明会でさらに明らかになったと言える。	財政推計の結果、建設費の減額が避けられないことから、実施設計図書に基づく整備は困難であります。これまで多くの市民の皆様のご参画をいただきながら、経費と時間をかけてたどり着いた実施設計を実現することが出来なくなりましたことにつきましては、苦渋の判断ではございますが、大変申し訳なく、改めてお詫び申し上げます。また、事業者の選定は、本事業が国土交通省の多様な入札契約方式モデル事業に採択され、既に支援事業者である日建設計コンストラクション・マネジメント株式会社と様々な検討を行っております。そして、要求水準書は市で作成するものであり、その策定に当たっては、引き続き、市民の皆様と意見を交換しながら進めていきたいと考えており、要求水準書の作成から事業者の選定、発注、建設工事に至るまで、専門家の協力を得るとともに、コストマネジメントの観点からコスト管理や品質管理ができる専門業者に支援を委託し、事業者に対するガバナンスを強化します。
34	説明会の開催、お疲れ様です。立場的に質問できないので、ここに書かせていただきます。施設のハード面の方針はよく分かったのですが、24年度、25年度に策定した管理運営基本計画、実施計画がどうなったのか、ここでは全く触れられていません。これらも設計と同様に、市民の方々が参加して作ったものです。方針や呼称が変更されたことから、これらも「無駄」になったのか。どのように考えられているかを説明することが、参加していただいた市民への責任かと思えます。今後、設計のついででも良いので、そのような機会があることを望みます。		芸術文化創造センターの管理運営基本計画や管理運営実施計画は、市民ホールの基本構想や基本計画における基本的な理念や方針をもとに定めたものです。また、今回の市民ホールの整備方針の考え方は、この基本的な理念や方針と共通したものであり、芸術文化創造センターの管理運営基本計画や管理運営実施計画を否定するものではありません。今後、施設の整備を進めていくとともに、これと並行して管理運営についても検討を進めてまいります。

35	駐車場について、一般使用可能な台数を50台は確保して下さい。		駐車場については、計画敷地内には業務を行う上で必要な台数分を確保します。来客者については、周辺の駐車施設の利用を基本とし、車いす利用者用駐車場や、高齢者や障がい者の送迎については配慮します。
36	まちおこしのため、将来を見越して建設に生かしてほしいです。まちの発展の目的、中心のため。		希望と活力にあふれた小田原をつくるため、シンプルで使いやすい良質な市民ホールの整備に取り組んでまいります。
37	城下町ホールから今日まで、専門家を含めて時間と金（税金）と労力をかけてきた事に常に疑念を感じて参りました。少子化、高齢化が日増しに進む西湘地区で担当者が考えてこられた思いが伝わってきません。そもそも土地の確保の問題から発していると思います。仮に予定地に建てるにしても、狭い土地では制限があるのでは。小田原市のお財布の状況は大丈夫ですか。	今日の説明会だけでなく、市民に広報するために、工夫して伝える術を教えてください。	建設用地については、小田原法務合同庁舎敷地の一部と市民ホール建設予定地の一部の交換について協議しておりますが、この結果如何にかかわらず、交換の対象となっている用地以外の部分にホールを建設する考えです。また、今後、非常に厳しい財政運営が見込まれることを踏まえ、後年度の財政負担の軽減化を図るため、建設費を減額しました。今回の整備方針については、市ホームページ及び広報小田原1月1日号に掲載しておりますが、今後も機会をとらえて市民説明会の開催など周知に努めてまいります。
38	文化芸術がしっかりした地域こそ、将来を担う子どもたち、命を育むことが出来ます。市民ホールは無駄でも遊びでもないと思います。南足柄にあるからいい、そんなことはありません。とても大事な優先させるべきものです。おざなりなホールをつくり、将来困ることよりは、今しっかりしたものをつくり、長く良いものを発信することがやらなければならないことです。	成人式をきれいなホールでやりたかった。この先、市民会館をまだ使えるなんて言う人ほど、ホールや市民行事、文化に興味が無いんだと思うと悲しい。このままでは小田原はいけません。将来を考えて、どうか素晴らしいホールを早くつくって下さい。今、小さい子どもがいる親が、ホールはいい、芝生がいいなどと言っている（とても少数の人ですが）のを知り、とても頭が痛い。子供たちにこそ必要なものなのに。音や板（舞台）が一番大切、中身が中途半端だと意味がない。	市民ホールは、文化的な面だけでなく、まちづくりやにぎわいの創出など経済的な発展にも寄与するもので、小田原にとって未来への投資であることから、南足柄市との合併をどうかにかかわらず、整備を推進していく考えです。また、今後、非常に厳しい財政運営が見込まれることを踏まえ、後年度の財政負担の軽減化を図る一方、早期の建て替えが求められている市民会館の機能を核に、シンプルで使いやすい良質なホールを整備するという面も考慮して、建設費をこれまでの約73億円から10億円程度減額して63億円程度としました。
39	細部について整備方針は良いので進めて欲しい。		皆様の期待に応えるためにも、シンプルで使いやすい良質な市民ホールの整備を推進してまいります。
40	8～9年の長きに渡り、専門家の人、前進座の橋本さん、井上ひさしさん、妹尾河童さん、その他の小田原に関係の無い人が、ホールの建設に、熱い思いに感動し、ここまで来ました。新居さんの説明会にも行きました。良いホールを造るというプロとしての一点で、熱い思いを語りました。良く練られたデザイン、音響も素晴らしく思い、早い建設を望みました。今になって、市は予算が無い等の理由で白紙に戻すというのは、とても納得の出来ない事です。説明出来ますか、ホールの色々な事	入札不調の理由をもっと早く市民に説明すべきだと思います。市の説明はもっともらしい限りで、こういう問題は、どこにでも起こる要因があることと感ずる。まさに豊洲でも起きている。説明会に来ない、勉強してない市民はだまされてしまう。市民ももう少し学ぶ必要があると強く感じる。	財政推計の結果、建設費の減額が避けられないことから、実施設計図書に基づく整備は困難であります。これまで多くの市民の皆様のご参画をいただきながら、経費と時間をかけてたどり着いた実施設計を実現することが出来なくなりましたことにつきましては、苦渋の判断ではございますが、大変申し訳なく、改めてお詫び申し上げます。
41		大ホールの客席数が1,400席と1,000席では、どのような差異が生じるのか。専門家、市民団体、市民等との意見を踏まえ、多角的に検討し、判断してほしい。東京や県東部には立派なホールがあるが、小田原からはやはり遠いと感じる。県西部、伊豆、静岡県東部を圏域とした中で、文化創造の拠点としてほしい。	大ホールは客席数1,000席以上としており、良質なホールを整備することを大前提に機能等を要求水準書で定めてまいります。要求水準書の策定に当たっては、引き続き、市民の皆様と意見を交換しながら進めていきたいと考えております。
42	話を聞きすぎて出来ないホール。もう原っぱで。小田原っぱホールということで良いんじゃないでしょうか。お金もかからないし、空間整備とすることで、小田原市民の基にある、小田原評定の最たるものということの証明となるとと思います。会場での話でもありましたように、南足柄市との合併もあるので、小田原にホールは造らない方向でお願いします。	日建設計主導の水準書、坪単価ありきの要求はナンセンスだと思いますので、全く必要ありません。	市民ホールは、文化的な面だけでなく、まちづくりやにぎわいの創出など経済的な発展にも寄与するもので、小田原にとって未来への投資であることから、南足柄市との合併をどうかにかかわらず、整備を推進していく考えです。日建設計コンストラクション・マネジメント株式会社は、国土交通省の多様な入札契約方式モデル事業によって市民ホール整備を支援するために派遣された事業者です。要求水準書は市で作成するものであり、その策定に当たっては、引き続き、市民の皆様と意見を交換しながら進めていきたいと考えており、専門家の協力を得るとともに、コストマネジメントの観点からコスト管理や品質管理ができる専門業者に支援を委託し、事業者に対するガバナンスを強化します。
43	安来市の例ですが、小田原市と人口規模が違います。人口規模に見合ったホールを再検討してほしい。（1,000人の大ホール、キャバは少なすぎます。）（大船渡市のホールも1,100人キャバです。人口4万程度）。文化都市を目指すならば世界的レベルのオーケストラ等呼べるホールを。余計な付帯施設は不要。基本、建て替えとして検討してほしい。説明会の持ち方について。初めて参加させていただきました。今日の説明会について前向きの意見を期待していましたが、残念な気持ちになりました。		大ホールは客席数1,000席以上としており、良質なホールを整備することを大前提に機能等を要求水準書で定めてまいります。要求水準書の策定に当たっては、引き続き、市民の皆様と意見を交換しながら進めていきたいと考えております。
44	老朽化を叫んだのが1988年のY E GのN響、読響、新日本フィルのコンサートであり、後、山本直純のサマーコンサートを通じて、告知、また1998年には、文化連盟が要望書を出しているが、それらは多くのことを望まない、老朽化を避け、早くホールの建設に着手してほしい要望書であった。今回の挫折は、多くの方が優しい新居さんに直接に要望し過ぎたことによるものが、コスト引き上げになっているのではないかと思います。これは今日集まった人に反省すべきことと思う。とにかく早く、人にやさしいホールを造ってほしい。座りやすい、演技しやすい、展示しやすい。行政側、見る側どちらから見ても、やさしく包んでくれる市民ホールを。	要求水準書のことは、もうあれだけワークショップをしてきたのだから……。実施するために最低限のことを……。にぎわい……。ギャラリーが常時使用されていていつも人がいる、そこにコンサート等で時間帯で1,000人の人が来る。賑わいを中心に思考するならギャラリーから視野を創らなければならない。興行からであれば大ホールの人数のキャバが採算できるものなのか。本日は小田原のランドデザインがあれば、それに沿って行うだけなので……。	実施設計におけるコストコントロールの反省から、要求水準書の作成から事業者の選定、発注、建設工事に至るまで、専門家の協力を得るとともに、コストマネジメントの観点からコスト管理や品質管理ができる専門業者に支援を委託し、事業者に対するガバナンスを強化します。諸室の配置など具体的な仕様については検討中であり、要求水準書の案を示す際には明らかにさせていただきます。要求水準書の策定に当たっては、引き続き、市民の皆様と意見を交換しながら進めていきたいと考えております。

<p>45</p> <p>市民を今迄のようにないがしろにせず、設計者、市民、専門家、市、商業者、使用者も交えて話し合いをすること。市長、市が勝手に、市民ホールに名前を変えたりしてはいけない。いとも簡単にこのようなことが出来るのか。水準を下げるためと取られても仕方ないと思う。オケピを勝手になくすこと一つとっても、要求水準も諸室も決めずに63億で造ることは、常識で考えても、順番が違う。必要なものが決まってから仕様が決まり、金額が出るのが、普通である。デザインビルドではゼネコン主導となり、3割以上の利益を確保するのがゼネコンの常識と聞く。内容を極端に落とさないと63億に収まらない。そういうゼネコン事情を承知して市はデザインビルドに進もうとしているのか。設計項目の全ての値段を知る新居氏と再度話し合いを持ち、63億でどこまで出来るのか聞かなくては、憶測の域を出ない。大手ゼネコンは63億で、大小ホールさえできないと言っている。インフレスライドで63億で出来ないとき、文化部長のような他人事のような言い訳は通用しない。全て市民の税金である事を市長はじめ市の職員は、肝に銘じてほしい。出来なくなった時の責任はどのようにするのかお聞きしたい。今回の市民説明会も、市の職員には、給与が支払われているが、私たちは、いつも、いつも無償ボランティアであることを忘れない欲しい。もう時間とお金、人の無駄遣いは終わりにしないと市がおかしなことになる。</p>	<p>大ホールは音響（生音も当然良い事）もよく大中小ホールに兼用できること。学会の報告でも、人口減の日本では、今後このような兼用ホールを推奨している。搬入は11トントラック横付け、やり易い事。展示もしかり。裏動線、表動線がうまく機能するホール、間口10間迄変換できる、舞台の半分の袖が上下にある。実施設計に準ずる事。大ホール1,100程度、小ホール（大スタジオ）300席平土間。大スタジオ（小ホール）が、音響もよくきちんと遮音出来、大ホールと同時開催出来る事。諸室、展示、市民がワーキング、リハーサルできる十分の広さの部屋がある事。これが出来ないなら、市の財政にとっても大きな負の負担になる為、造る必要は無い。市民が気軽に参加出来る事。バリアフリーがきちんとできる事。街づくりの拠点となり、商業者も入れること、カフェ、レストランも必須。イベントの日だけの施設にならないこと。防災の拠点となる事。景観を大事にすること。検察庁の建て替えの向きによっては壁の様に圧迫感のあるエリアにならないか。土地が確定しない前に設計などできないと思うが、大幅に遅れることは時間も、人件費も無駄。</p>	<p>新しい施設の呼称については、新しい施設は、現市民会館の機能を核に組み立てることとし、当面の呼称を「市民ホール」とし、シンプルで使いやすく、これに加えて、質の良いホールを目指します。建設費は、質の良いホールを造るということと、将来の負担を減らすという点を考慮して、63億円程度としました。要求水準書の策定に当たっては、引き続き、市民の皆様と意見を交換しながら進めていきたいと考えており、専門家の協力を得るとともに、コストマネジメントの観点からコスト管理や品質管理ができる専門業者に支援を委託し、事業者に対するガバナンスを強化します。そして、今後の事業者選定には、新居氏のエントリーも可能であるため、事業者選定の際の仕様書に相当する要求水準書の作成に新居氏が関与することは、公平性の面から適切ではありません。また、民間事業者を対象にした「事業提案」に向けた意見募集の結果から、事業提案は、事業者の参加意欲も高く、事業者の柔軟かつ優れたアイデアに基づく提案を受けることにより、建設費の上限内で本市にとって最も有利な整備内容の実現が可能です。建設費については、予期することのできない特別の事情が発生した場合、例えば急激なインフレーションが生じ、建設費が著しく不適当となった時には、どのような整備手法であってもインフレスライド条項を適用することになるものと考えています。諸室の配置をはじめ、具体の仕様については検討中であり、要求水準書の案を示す際には明らかにさせていただきます。さらに、人にやさしい施設、にぎわいの創出、防災対策、景観への配慮など市民ホール基本計画にある施設整備の基本的な考え方は踏襲し整備に取り組みます。建設用地については、小田原法務合同庁舎敷地の一部と市民ホール建設予定地の一部の交換について協議しておりますが、この結果如何にかかわらず、交換の対象となっている用地以外の部分にホールを建設する考えです。</p>
<p>46</p> <p>あくまで、新居案での建設を強く望みます。複数の専門家から高い評価を得ている新居修正案は69億。市が方針とする事業提案は設計もこれからで、それらの経費も含めて64億。正味の建設費はいくらに減るのでしょうか。建築物としては、新しくなってもホールの鍵となる音響や使い勝手などの機能が現市民会館に毛の生えた程度のものでないか心配です。当初予算から10億減らすための苦渋の決断と市長は話されましたが、長い時間をかけて市民参加で作上げた設計をなぜ今頃になって、簡単にあきらめてしまうのでしょうか。あえて言いたいと思います。「たった5億のために、金の卵を手放すの。」専門家に、地方都市NO1のホールになると太鼓判を押されているホール、利用者に満足と感動を与えられるホール、大幅に集客を広域から見込めるホールを造ることで結果的にランニングコストを減らせます。毎年の税金補てん額も結果として低減できると思います。提言です。今こそ市長がリーダーシップを発揮し、知恵と工夫で就任時の公約実現のために5億円を何とかしよう、かき集めようという情熱を持ってください。たとえば、広く寄附を募ったり、命名権を販売したり、大手ゼネコン以外の業者の協力もおおぐとか、あきらめずに頑張っていただけませんか。ぜいたくなホールは要りません。小田原にふさわしい、良質なホールが欲しいのです。小田原の将来のために。</p>	<p>あくまで、新居案で設計された水準を出来る限り要求します。</p>	<p>財政推計の結果、建設費の減額が避けられないことから、実施設計図書に基づく整備は困難であります。これまで多くの市民の皆様のご参画をいただきながら、経費と時間をかけてたどり着いた実施設計を実現することが出来なくなりましたことにつきましては、苦渋の判断ではございますが、大変申し訳なく、改めてお詫び申し上げます。建設費は、質の良いホールを造るということと、将来の負担を減らすという点を考慮して、63億円程度としました。</p>